

目標(1) 協働推進



ずっと住み続けたいまちを

みんなで一緒につくります

この施策が目指す5年後のまちの姿

- ◇高浜市に暮らすみんなが、まちの課題や目標を共有しています。
- ◇まちづくりに参加したい、まちのために挑戦したいという人が気軽に活動を始められ、将来のまちづくりを担う人材が増えています。
- ◇自分のためだけでなく、誰かのため、まちのために自分ができることをし、活動することで、みんながゆるやかにつながっています。

この目標分野の現状と5年後のまちの姿の実現を見据えた課題

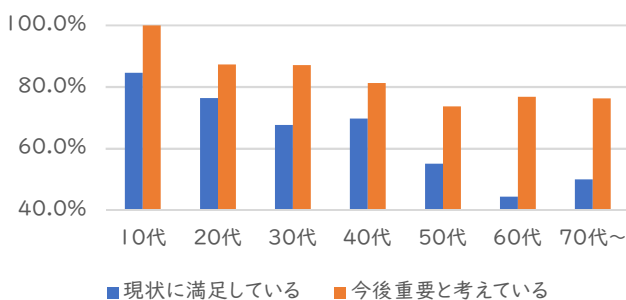
《現状》

- ◆地域活動の活性化とコミュニティの形成について若い世代ほど重要と考えているが、50代以上で現状に対し満足していないが、重要とも考えていない傾向にあります。
- ◆10代・20代は高浜市に住み続けたいという意識が他の年代より低く、若い世代ほど高浜市への愛着が薄いといえます。
- ◆20代は、転入、転出者数が他の年代よりかなり多いことから、居住年数が少なく、まちへの愛着（シビックプライド）が醸成されにくい状況であると考えられます。
- ◆深いつながりや負担を要するコミュニティに属することを望まない方も多くいます。
- ◆かつては協力・助け合わなければできなかったことが、民間サービスや技術の進歩により、個人で解決できるようになりました。
- ◆地域団体の加入率が低下する中、役員の成り手不足も深刻化しています。

《課題》

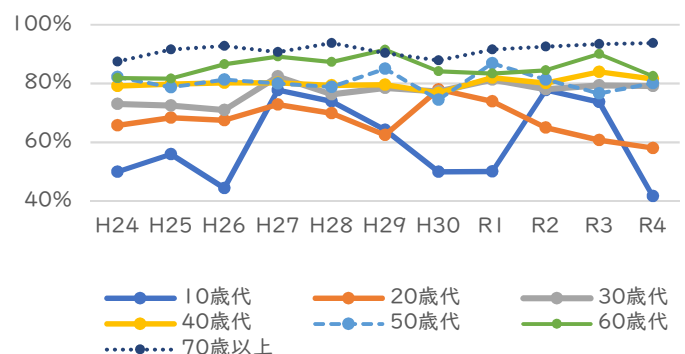
- ◇ゆるやかにつながれ、いざという時には協力し合える風土をつくる必要があります。
- ◇特に若い世代に対するシビックプライドの醸成を促進する取組み（応援・きっかけの創出）が必要となります。
- ◇時代の流れにあわせて、地域のデジタル化についても進めていく必要があります。
- ◇災害などいざという時はアナログな助け合いが必要となります。
- ◇まちづくりの担い手育成や発掘に取り組んでいく必要があります。

地域活動が活発で良好なコミュニティの形成に関する意識



出典：市民意識調査

高浜市に長く住み続けたいと思う人の割合



出典：市民意識調査

■まちの課題や目標を共有します。

- ・高浜市の目指す将来都市像とその意味を積極的に発信します。
- ・まちの課題について語り合い・共有する場を創出します。

■誰かのため、まちのために活動する人や団体、企業を応援します。

- ・若い世代のちょっとした挑戦を応援できる仕組みの構築等、既存の支援制度を見直し、より効果的な支援を行います。
- ・定年延長等、地域に関わる年齢が高齢化する中、働きながらも地域デビューできるきっかけづくりや意識啓発を行います。
- ・デジタル技術の導入など活動の負担軽減を図れる仕組みを協働で研究・実施します。

■まちづくり活動を通じて、ゆるやかにつながる風土を育みます。

- ・まちづくりに関わるインセンティブ*の付与、活動の発表会やコンテスト等、まちづくりに興味・関心を持っていただける仕組みを構築します。
- ・町内会やまちづくり協議会活動、企業の地域貢献活動などを積極的に発信していくことで、コミュニティ活動への参画促進を支援します。
- ・時代にあったコミュニティ活動のあり方を市民・地域団体と一緒に考え、実現していきます。

目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2022)	目標値 (2027)
高浜市が目指すまちの目標（キャッチフレーズ）を知っている人の割合	36.3%	100%
最近1年間で高浜市 ^{まち} のために活動をしたことがある人の割合	30.0%	60%
まちづくり協議会の活動に関わったことがある人の割合	26.6%	50%

[関連する個別計画等]

◇地域計画(各小学校区)

一人ひとりにできること

- 高浜市公式LINEに入ってつながろう。
- 自分の得意なこと、やりたいことを地域に活かしてみよう。
- 地域のお祭りや行事に参加しよう。
- いろいろな場に顔を出して、地域に出るきっかけを探してみよう。
- 子ども食堂のことを知ろう、そして応援しよう。

みんなのできること

「みんなのできること」は各まちづくり協議会で作成している地域計画の一部を抜粋して掲載しています。掲載しきれない項目もありますので、詳しくは各まちづくり協議会の地域計画をご参照ください。

- 地域住民の様々な特技を活かし、小さな困りごとの解消や小規模な業務を請け負うことで、自主財源の確保につなげ、交付金のみに頼らず独自のまちづくりに活かしていく。
- 困りごとや相談事がある住民に対し、気軽に話ができるような「かけこみ寺」のような場を創出する。
- まちづくりに関わるやりがい・楽しさを広め、まちづくりを担う人材育成に取り組む。
- 校区内の団体相互の連携・協力関係を育む。
- 団体の課題や問題をざっくばらんに協議しあえる場をつくろう。

など



▲高浜市の未来を描く市民会議



▲ざっくばらんなカフェ

目標(2) 多文化共生



お互いを理解し、支え合い、

誰もが地域の一員として活躍できるまちをつくりま

この施策が目指す5年後のまちの姿

- ◇市民がお互いの国籍や文化の違いを理解し、認め合い、外国籍市民も地域の一員として助け合い、活躍しています。
- ◇性別や考え方の違い等の多様性を理解し、認め合い、高浜市に暮らすだれもが、お互いを尊重し合えるようになっていきます。

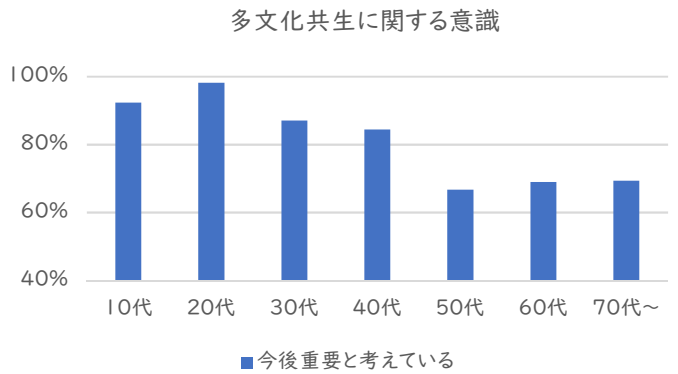
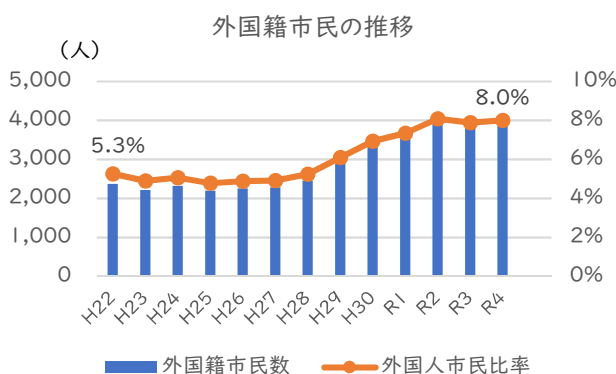
この目標分野の現状と5年後のまちの姿の実現を見据えた課題

《現状》

- ◆年々外国籍市民の方が増加し、総人口に占める外国籍の方の割合が8%を超える等、愛知県内自治体で最も高い人口比率（令和3年6月末時点）となっています。
- ◆令和3年7月に多文化共生コミュニティセンターを開設し、外国籍住民に対する一元化相談窓口の設置や初期日本語教室等に取り組んでいます。
- ◆外国籍の方と日本人の相互理解の意識に差が生じています。
- ◆性的マイノリティの方々をはじめ、すべての市民の人権を尊重し、多様な生き方を互いに認め合う社会の推進のため、令和4年4月よりパートナーシップ宣誓制度を制定しています。

《課題》

- ◇日本語も母語（最初に覚えた言語）もたどたどしい世代の発生や多国籍化による情報発信ニーズの多様化、外国籍市民の高齢化等、今後、さらなる発生が想定される新たな課題に対処していく必要があります。
- ◇LGBTQ*をはじめとしたさらなる人権尊重の意識啓発を積極的に取り組んでいく必要があります。



出典：市民意識調査

出典：市民意識調査

■多様性を認め合い、誰もが暮らしやすい環境をつくりま

- ・国籍に関わらず暮らしやすい環境をつくるため、多文化共生推進計画を策定します。
- ・市からの情報を多言語及びやさしい日本語で提供するとともに、外国籍市民の状況把握、相談支援等を充実します。
- ・外国籍市民が生活していくために必要な日本語やルール等を学ぶ機会を充実します。
- ・性別や考え方の違い等に関わらず暮らしやすい環境をつくるため、パートナーシップ制度等、価値観を認め合う環境を整えます。

■多文化共生社会の実現に向け、一人ひとりの意識を高めます。

- ・相互理解や多文化共生についての理解を深めるための交流機会や学習機会を充実します。
- ・多様性を認め合う多文化共生に関する講演会や研修会の実施等による意識啓発に努めます。

■外国籍市民の社会参画を促進します。

- ・外国籍市民が主体的にまちづくり活動に関わることができるよう、外国籍市民へのまちづくりに関する情報提供と参加促進に努めます。
- ・外国籍市民と地域をつなぐ人材育成及び人と人をつなぐネットワークを構築します。

目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2022)	目標値 (2027)
高浜市を住みやすいと思う外国籍市民の割合	92.7%	90%台を維持
最近1年間で外国籍の方と何か一緒に活動したことがある人の割合	11.5%	25%
市の審議会等の委員となっている外国籍の方の人数	1人	10人

【関連する個別計画等】

◇地域計画(各小学校区) ◇高浜市女性活躍推進計画

一人ひとりにできること

- 日本人も外国籍の人も、あいさつなどお互いに声をかけ合おう。
- 食を通じて交流しよう。
- 地域のイベントに参加してもらえるように声をかけよう。
- 「やさしい日本語」で話そう。
- 差別偏見を持つのをやめよう。

みんなのできること

「みんなのできること」は各まちづくり協議会で作成している地域計画の一部を抜粋して掲載しています。掲載しきれていない項目もありますので、詳しくは各まちづくり協議会の地域計画をご参照ください。

- 学区内に多く居住する外国籍住民との交流を図る（各種イベントなどへの参加、各国の料理自慢等）。
- 多文化への理解を深めるためこちらから交流していこう。

など



▲文化交流事業



▲SDGsをテーマにした多国籍な学習風景

目標(3) DX (デジタルトランスフォーメーション) 推進



時間と場所を選ばない行政サービスを提供します

この施策が目指す5年後のまちの姿

- ◇市民が時間と場所を気にせず必要な手続きを行うことができています。
- ◇業務の改善・効率化で浮いた人的資源を市民一人ひとりに寄り添ったサービスの強化に繋げることができています。
- ◇各種相談や面談が必要な手続き等、どうしても市役所に行かなければならない時でも、効率的なデジタル窓口が実現しています。
- ◇市民が安心して情報提供できるセキュリティシステムが構築されています。

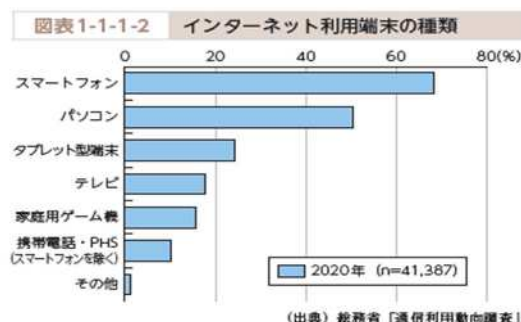
この目標分野の現状と5年後のまちの姿の実現を見据えた課題

《現状》

- ◆国の「自治体デジタルトランスフォーメーション (DX*) 推進計画」により全ての市町村に対して足並みを揃えて「情報システムの標準化」や「行政手続きのオンライン化」が求められています。
- ◆インターネットサービスの利用者が各世代で増加しています。
- ◆セキュリティ脅威 (情報搾取や不正行為、詐欺、情報漏洩など) が高度化、複雑化しています。

《課題》

- ◇情報システムの標準化に併せAI*やRPA* (ロボティクス・プロセス・オートメーション) 等の新技術の導入により業務の効率化や適正な執行を図る必要があります。
- ◇市民が時間と場所を選ばず行政サービスを受けられるよう行政手続きのオンライン化を進める必要があります。
- ◇各種相談や面談が必要な手続き等、どうしても市役所に行かなければならない時、市民の負担軽減や利便性の向上を図るため、書かない・待たない・行かないデジタル窓口の実現が必要となります。
- ◇市民情報を守るためのルールづくりや情報管理体制等、セキュリティの強化を進める必要があります。



■行政サービスのオンライン化を実現します。

- ・引越や子育て関係、介護関係等の手続きについて、マイナンバーカードを用いた手続きを含め、普及率の高いスマートフォンでも手続きできるよう行政サービスのオンライン化の実現に取り組みます。

■情報システムの標準化と効率化を実現します。

- ・住民基本台帳、介護保険、税、国民健康保険、年金、選挙人名簿等市民に身近な手続きについて情報システムの標準化と事務の見直しに取り組みます。
- ・他の自治体と連携しながらA I*やR P A*等、新技術による業務効率化の実現に取り組みます。
- ・計画的なD X*の推進、人材の育成に取り組みます。

■書かない・待たない・行かないデジタル窓口を実現します。

- ・申請書記入の負担軽減、関係窓口の連携強化による待ち時間の解消、証明書自動発行機（行政キオスク端末）の普及拡大により、書かない・待たない・行かないデジタル窓口の実現に取り組みます。

■市民情報を守る情報管理体制を実現します。

- ・D X*の推進にあわせた新たなルールづくりとして高浜市個人情報保護条例の見直しに取り組みます。
- ・全ての職員が個人情報保護、情報管理スキル等が向上するよう研修・教育体制の構築に取り組みます。

目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2022)	目標値 (2027)
窓口事務取扱件数（市役所来庁者数）	72,878件	50,000件
個人情報の保護に関する法律第68条第1項に該当する情報漏洩報告件数	0件	0件

[関連する個別計画等]

◇地域計画(各小学校区)

一人ひとりにできること

- マイナンバーカードのことを知って、取って、使おう。
- スマートフォンの使い方を知って、知らない人にも教えてあげよう。
- 市役所に行く・聞く前にデジタルで手続きできるか調べよう。
- コンビニで証明書をとって、便利さを友人に伝えよう。
- オンラインで講演会を見て（聞いて）みよう。

みんなのできること

「みんなのできること」は各まちづくり協議会で作成している地域計画の一部を抜粋して掲載しています。掲載しきれていない項目もありますので、詳しくは各まちづくり協議会の地域計画をご参照ください。

- 高齢者がLINEやZoomといったツールを使用できることを目指し、タブレットを用いて教室を開催する。
- 友人と情報交換、発信などができるように楽しく学ぶ「PCスマホ教室」をはじめよう。
- まち協や町内会など、各種団体の活動予定をカレンダーとして公開しよう。
- IT関係（広報）の作業量増加に対応する人材を確保していこう。



▲スマホを利用した防災力向上研修



▲マイナンバーカード特別窓口

目標(4) 情報発信・シティプロモーション



まちのことを知って、

高浜市を応援したいという想いを育みます

この施策が目指す5年後のまちの姿

- ◇情報を受け取る側の立場に立ち、まちの情報がいつでもどこでもわかりやすく得られるようになっています。
- ◇「知っていてほしい」情報が、確実に市民に届くようになっています。
- ◇まちのことが多くの人に伝わり、高浜市を「応援したい」、高浜市に「行ってみたい」「住んでみたい」という人（ファン）が増えています。

この目標分野の現状と5年後のまちの姿の実現を見据えた課題

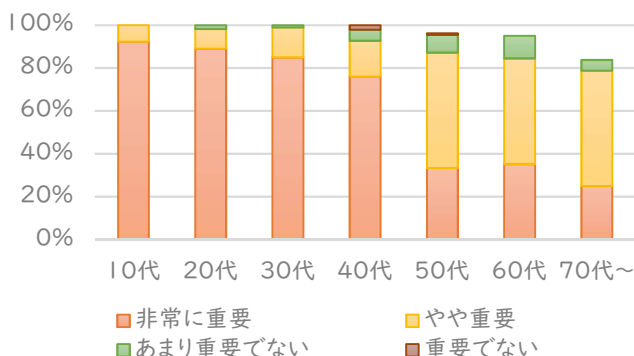
《現状》

- ◆市の情報の入手環境については、40代までは満足傾向にあるが、50代以上は満足傾向にある方の割合が50%を下回っています。
- ◆スマートフォン等の普及等、情報を得るツールが進化・多様化する中、情報の取得方法も紙媒体からデジタルへと変わってきています。
- ◆市の情報は身近に感じづらく、市民にとって興味や関心をもちにくい傾向にあります。
- ◆20代・30代の方に比べ、50代以上の方は、まちの魅力発信はあまり重要ではないと感じています。

《課題》

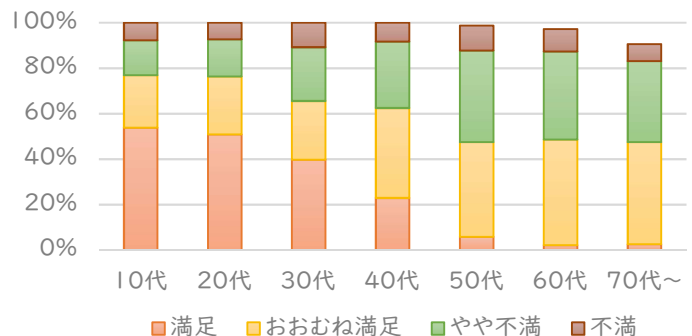
- ◇市民の関心や社会のトレンドにアンテナを張り、ニーズをくみ取る必要がある他、発信者側の情報発信に対する意識やスキルを向上させる必要があります。
- ◇電子媒体を使いこなせる世代にはより情報が伝わり、電子媒体に不慣れな世代には情報格差が生じないように、発信する内容や発信媒体の工夫、電子媒体を使いこなせるようになるための取組みが必要です。
- ◇高浜市に関わったことがある人など、関係人口の増加を目指し、高浜市のファンを増やしていくことが今後必要となります。
- ◇人と人のつながり、コミュニケーションを通じた発信で市民の満足感・納得感を高めていく必要があります。

必要な情報が手軽に入手できる環境の重要度・満足度



無回答を除いているため合計値が100%にならないことがあります。

出典:市民意識調査



無回答を除いているため合計値が100%にならないことがあります。

出典:市民意識調査

■ まちの情報をわかりやすく発信します。

- ・ 市民一人ひとりが広報マン、まちぐるみで情報を発信していく風土と仕組みを構築します。
- ・ 職員の情報発信に対する意識とスキルを向上させ、分かりやすい情報発信に努めます。

■ 「知ってほしい」が、確実に届く環境を整えます。

- ・ ICT*技術の活用等、その時代にあった情報発信媒体を取り入れ、情報の種類や受信者に適した発信方法で、タイムリーな情報提供に努めます。
- ・ 市民と行政がお互いにコミュニケーションをとり、情報交換を活発に行い、情報のニーズをくみ取るとともに、つながりを通じて情報を発信します
- ・ 高浜市の情報はここを見ればわかるという情報のプラットフォームを整備します。

■ 高浜市を応援したくなるよう、まちの魅力を高めます。

- ・ これまで磨き上げてきた地域資源の可能性を研究し、さらに磨き上げます。
- ・ 新たな地域資源、魅力の発掘・開発に取り組みます。
- ・ 市民が高浜市（ふるさと）の良さを再発見できるきっかけをつくります。

目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2022)	目標値 (2027)
最近1年間で高浜市のことをSNSで発信や友人に話すなどしたことがある人の割合	16.1%	50%
市公式ホームページへの年間アクセス件数	912,113件	2,500,000件
高浜市へのふるさと応援寄附金額	116,401,000円	300,000,000円

〔関連する個別計画等〕

◇地域計画(各小学校区) ◇高浜市広報戦略

一人ひとりにできること

- SNS (TikTok・YouTube) で高浜市を紹介しよう。
- でか落花生を広めよう。
- 勝手に観光大使になって一人ひとりがまちをPRしよう。
- 高浜市公式LINEに登録し、知り合いにも登録してもらおう。
- 市民記者になろう。

みんなでできること

「みんなでできること」は各まちづくり協議会で作成している地域計画の一部を抜粋して掲載しています。掲載しきれっていない項目もありますので、詳しくは各まちづくり協議会の地域計画をご参照ください。

- 地域の特色を活かし、伝統を見直し、まちへの愛着を深める事業を展開する。
- 季節の風物詩の見ごろに合わせて、市内外に魅力を周知する
- 散策マップ図を公共施設などに設置します。
- 会報やホームページなどでまちの情報を発信します。
- 各団体のイベント情報を収集して公開する仕組みをつくろう。
- まちづくり協議会や地域の主要団体の活動を紹介して、地域住民に各団体への理解を深めよう。 など



▲高浜市 LINE 公式アカウント



▲市公式ホームページ